

保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
神奈川県保育会

発行人
富田英雄

題字
故内山岩太郎筆

第46回全国保育研究大会

第四十六回全国保育研究大会が、平成十四年十一月十三日(十五日)にかけての三日間、香川県高松市において開催されました。

羽田空港から一時間余りで紅葉に彩られた四国路の高松空港に到着。開催場所である香川県民ホールまでの道のりは、歴史ある街にふさわしく自然と融合し、市内には国の特別名勝である栗林公園を始めとして、源平の古戦場で知られる屋島等名所旧跡が数多くありました。

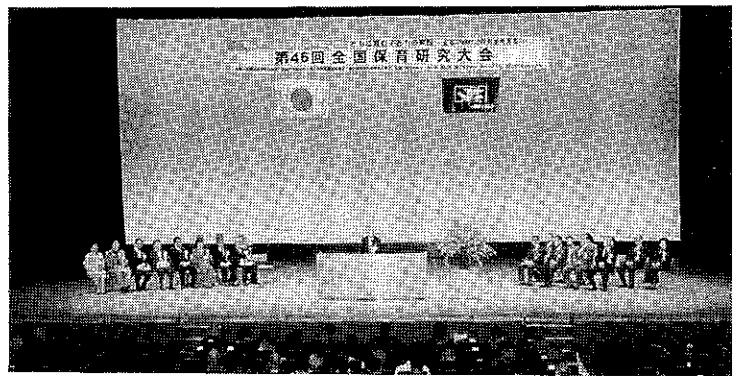
今回の大会は、全国保育協議会設立五十周年という記念すべき節目の大会でもあり、全国から二千人を超える保育関係者らが参加し、「ともに育む子どもの笑顔―変革の時代の保育を考える―」をテーマに、少子高齢化の進行や社会構造の変化などを受け、福祉・保育が大きく変わりつつあるなか、これからの子育てのあり方と保育所の役割について研究を深め協議が行われ

ました。大会初日は、県民ホールに於いてサヌカイト(石琴)という自然石の楽器での赤とんぼ等の演奏で始まりました。

開会式では、香川県保育所管理者協議会の荻田美和子会長による開会挨拶に続き、大会実行委員である大賀のり子氏が児童憲章を朗読、主催者として全国保育協議会会長の佐藤信治氏の「深刻な少子化は経済などへの悪影響も懸念される。この様な変革の時代だからこそ保育を充実させる必要がある。」という言葉に続き、全社協常務理事の松尾武昌氏からも挨拶がありました。

続いて、保育事業に尽力された方々への表彰が行われ、本県では会長表彰六名、五十年記念感謝十八名の功績が称えられました。

次に、ご来賓として厚生労働省雇用均等・児童家庭局長(代読保育課課長補佐高橋吉則氏)、香川県知事真鍋武紀氏、高松市長増田昌三氏より



ご祝辞を頂きました。

厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長補佐高橋吉則氏の行政説明に続いての基調講演では、全国保育協議会副会長の小川益丸氏より「全社協が昭和二十七年の設立以来五十年にわたり、時代の流れの中で常に保育施策の変革に現場の立場からかわり、重要な役割を果たして来たか」をダイジェストで伺う事ができ、あらためて全社協の歴史と歩んできた重みに身が引き締まる思いでした。

大会二日目は、「地域子育て支援活動の推進を考える」「保育の質の向上と職員養成について考える」「多様な保育ニーズへの対応を考える」等、第一十一分科会に分かれ、各会場にて研究発表と熱心な討議が行われました。最終日には、全国保育協議会設立五十周年シンポジウム「保育新世紀 これからの保育の専門性とは何か」というテーマのもと、白梅学園短期大学学長石井哲夫氏をコーディネーターに、シンポジストとして「遊育」編集長の吉田正幸氏、歌手の平松愛理氏、NHK解説委員の飯野奈津子氏、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長高井康行氏より時に厳しい提言もありこれからの保育について指標となるものを感じました。

閉会式では、大会アピール趣旨説明に続きアピール朗読、そして次期開催地である京都府保育協会会長伊藤義明氏より挨拶があり、全国保育協議会副会長の松川和照氏の閉会のことばで記念すべき第46回保育研究大会が終了しました。

園長研修会

今年度の園長研修会は二月二十日、二十一日の両日にわたり行われました。

小田原市の山王保育園での講義からスタートした研修会一日目は、参加(七十名)で用意された会場が満員という盛況振りでした。

「取材を通して考えられる幼・保問題」と題した「遊育」の山田麗子先生の講義は今ホットな話題、幼保一元化のさまざまな取り組みの情報がいっぱいでした。

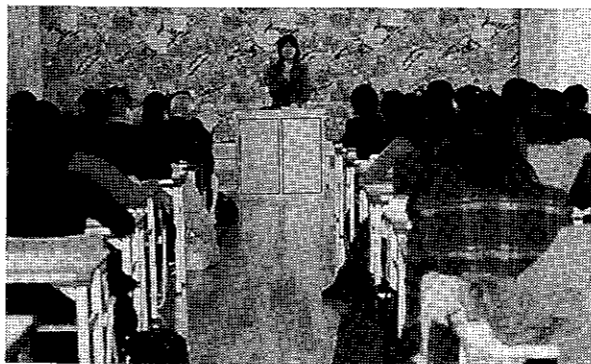
幼稚園、保育園の保育内容を一体化して運営しているケースや幼稚園の預かり保育の様子。幼保を含む子どもの窓口一本化を試みる各自自治体の取り組み。加えて就学前児童の約5割といわれる家庭保育の状況と、NPOやボランティア団体の活発な支援活動の様子等々。

そして既存の制度、仕組みでは対応しきれない限界が見

える中で、今、家庭保育を含む全ての子どもに公的サービスが必要とされている、そのために保育のノウハウが求められていると提示されました。第一線で活躍中の記者ならではの充実したお話でした。

二日目は、強羅の「せせらぎ」を会場に、全国社会福祉協議会・児童福祉部の岡浩幸先生を講師に迎えました。演題は「保育をめぐる動向と全保協の対応」です。

①保育所運営費の一般財源化
②幼保一元化



③直接補助方式
④少子化対策の動き
という、今一番気になることをまとめ、これまでの取り組みの経過と今後の見通しも含めたお話は、それぞれが粛々と進行中であるということと、大変厳しい現状報告でもありました。

そんな中で保育三団体が一致団結して一般財源化等の反対を表明し、要望運動に取り組むことに合意、共通要望書を提出するに至ったことは交渉を進める際の大変大きな力になったことがよく理解できました。

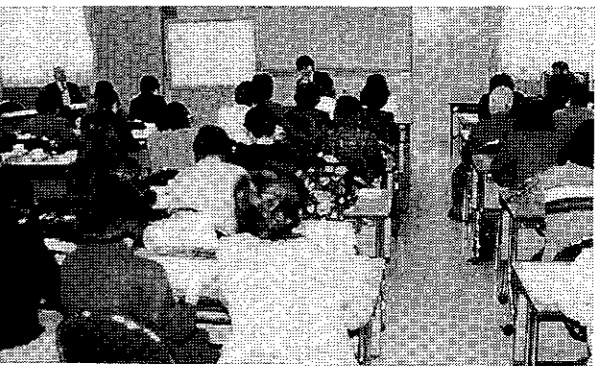
設立五十周年になる全保協の対応として

①認可保育所の役割を認識、理解してもらうためのキャンペーンの実施
②待機児童の解消に向けた取り組み

③国家資格化に伴う新たな保育士向け研修

④過疎地域の保育所、公立保育所の諸課題の取り組み

⑤制度問題の対応
を挙げられ、責任を持った発



言をし、実を取っていくと結ばれました。この言葉は質疑応答の中でも「名を捨て実をとる」と繰り返され、厳しい現実を語っているとの思いを一層強くしました。そんな状況の中で、神奈川県委員のみなさんの活躍はめざましいものであるとの報告は、大変心強く伺いました。

今回の研修にはプラスαがありそのひとつは山王保育園の施設見学でした。建築から丁度一年になるという光をいっぱいに取り込み、明るく木のぬくもりを感じる園舎は、

園長先生の「食育」を大切に

取り組みられていることが随所に伺われる設計、配置になっていることが、給食の様子も見学でき良くわかりました。子ども達のとて自然な、それでいてはきはきした挨拶と笑顔が素敵でした。

お忙しい中大勢の見学者を気持ちよく受け入れて頂きありがとうございます。もうひとつは、ポーラ美術館見学です。駆け足での鑑賞でしたが、心も鎮まるような木立の中の美術館で、暫し時間を忘れ名画に見入りました。

参加者が多く、宿泊が二施設に分かれたほどでしたが、それだけ交流の機会も多く情報交換ができたのは宿泊研修ならではのと言えます。

二日間の研修で二人の講師は揃って保育所の果たす役割の大切さと、社会福祉施設としての更なる取り組みを説かれました。

中堅保育士研修会

本年度は、九月六日(金)県福祉会館で開催され、午前の部では神奈川県保育会々長富田英雄氏の「保育園の変革の中」での講義を受け、保護者対応のむずかしさや、いろいろな制度が導入される中で保育をきめ細やかにすることの大切さを実感しました。

横浜女子短期大学助教授横森弘之氏の音楽リズムの感性を高める方法について、現場で役立つハーモニーのつけ方を教えている童謡にハーモニーを付けることにより新しい発見がありこれから保育現場で生かしていきたいと思えます。

午後は「保育の質の向上のために」と題し湘北短期大学山岸道子教授が子どもにとって保育園・保育士がいかに大切な役割をもっているかをこやかに講義してくださいました。

子どもが安心して、ありのままに過ごせ、さまざまな欲

求を受け止めるには、穏やかな保育者であることが必要で、良い保育のために求められる保育士像は、人間性、専門性、倫理観に裏付けられた知性と技術、豊かな感性と愛情を持ち、一人一人の子どもの関わりを大切にすることや、あつてほしいということや、また、保護者に対しては現在の状況を温かくありのままに受け止め、批判的な目を向けず少しずつアドバイスをすることで良い関係ができ、子どもも良い状態に育つというお話がありました。

次に第三者評価について説明があり、最後に現在の日本の社会における保育所の使命として、保育所は子どもの居場所があること、くつろげる場所であること、園のきまりは保護者の意向を取り入れ回答すること、偏食については、食は個性であり叱らないことが大切です。

その後、グループ討議が行われ、中堅保育士の役割について多様な意見交換をして勉強を深めました。

主任保育士研修会

去る十一月一日(金)神奈川県社会福祉会館において平成14年度主任保育士研修会が開催され午前の部では、県保育会会長富田先生による「今こそ主任の時代」というお話を頂きました。今保育園は急速に様変わりをしている。その中で主任として何をしなければいけないか、自分が果たすべき役割を考える。自分の保育園の目標は何か、保育の基本理念を確認する事、第三者評価は、自己評価・自己点検チェックをし、自分の園はどの点が欠けているのか、良くして行くにはどう改善して行くか、主任がリーダーとなって進める。また、園長と保育士をまとめながら若い保育士も育成して行く。若い保育士を育成するには、一番基本になる所からしっかり話をして理解させる。やさしく時には厳しく愛情を持って育てる。一つけなして三ツ替める。どう替えて保育士を使うのか

替えて保育士を使うのかか、こどもの体臭をかきわけられることが大切。いまや保育園は母親の就労支援のため

鍵。保育士は鼻が命、子どもを抱いた時、昨日と同じ臭いか、こどもの体臭をかきわけられることが大切。いまや保育園は母親の就労支援のため

りを担う保育士さんには、特にこのことを伝えたいのだと言われました。また、日本の子どもは「自己肯定感」が弱いというところが、アメリカ、中国の子どもとの調査比較で明らかになっているとのこと。また、この調査では、いかに日本では親子の信頼関係が育っていないかが、浮き彫りになっていきます。子どもが信じていない人からのしつけなどできない。だから「○○ちゃん、先生のこと信じているよ」と言えますか?と保育士は絶えず心の中で問いかけ

るようにと言われました。すぐれた保育とは、愛に飢えている子を好きになること、その子のいいところを見つけてことだそうです。「ちょっと気になる子:」では、ADHD、自閉症、LD児の持つ特徴とかかわり方のポイントについて話していただきました。思わず佐々木ワールに引き込まれ、3時間があっという間。来年も佐々木先生をお願いしていますので、ご期待ください。

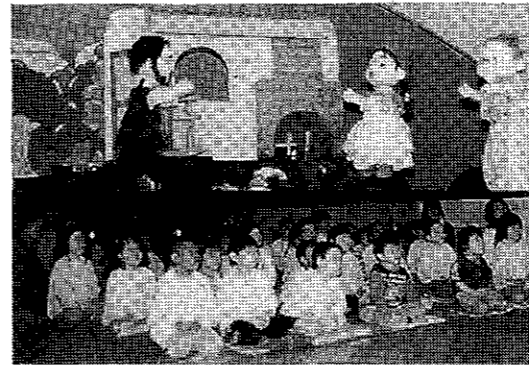
『地域の子育て支援状況』について

(広報部員による座談会内容をまとめ、報告します)

保育園は、地域の核として子育て支援を実施しています。各地域で行っている豊富な状況を語っていただきます。

「保育園開放」が中心

藤沢 公立保育園が十六園あり全園が「園庭開放」を行っています。親子で「保育園に遊びに来ませんか」の予定表を二ヶ月前に発行し市民の方に呼びかけています。日・時は月曜日から土曜日の十時から十六時までです。「園庭開放」は園児と一緒に園庭で遊



んだり、親子で折り紙や簡単に出来るお面等も作ったりします。人形劇や誕生会にも参加することもあります。また看護師による育児相談や体重測定も行い喜ばれています。

育児相談は保育園でも毎日行っていますが、園長が「市民の子どもの家」に出向き相談を受けています。子育ての悩みや友達が欲しいとの相談があります。若いおかあさんが気軽に遊びに来たり相談できる場所を提供していきたいと思っています。

逗子 育児センター事業を先駆的に展開してきた園の存在もあり、各園いろいろな形で子育て支援に取り組んでいます。

当園でも「遊びに来ませんか、お楽しみ村」と名付け、毎月担当者とテーマを決め電話の予約で行っています。希望者には親子の食事提供もしています。このような体験保育をすることにより、食事に興味を持つようになり、食事の



量、食事の与え方など親が日常気づかなかった点に気づき、作り方にも関心を示すようになっています。食事のお手本を示す調理員も重要な役割を担っていることはいまでもありません。

茅ヶ崎 他市同様に園庭開放は、それぞれの地域で実施しており、木曜日が多く午前中を中心にしています。

育児相談、園内見学も実施しています。他に世代間交流などは地域ごと責任を持ち、無理なくで

きるとよいと思っています。

大和 保育園の子育て支援は、平成に入り一園で年二回保育園を開放しあそびを提供したことから始まり、現在では公立保育園の全園において施設を開放し、保育園の子ども達と一緒に遊ぶ「あそぼう会」を実施しています。受け入れ日時や内容は各園それぞれ工夫しつつ行っています。「あそぼう会」に参加することにより職員とのコミュニケーションが深まり、育児相談等気軽に話し合えるようになっています。

また保育園が中心となり、子育て支援センター職員、保健師、民生委員、サークル代表者、他機関の子育て支援担当者で構成する子育て連絡会議をもち、「地域子育て講座」を開催しています。今年度当園では、身体測定、離乳食展示、育児相談、手づくり玩具のコーナーと全体では親子のふれあいあそびとおかあさんに視点をあてた内容のものを取り入れました。

南足柄 地域における子育て家庭への養育ニーズを受けとめ、保育園の持つ専門的機能を拡大し、各園では各々の特色を生かし、週一回程度公開保育を実施し、子育て支援の一翼を担っております。南足柄市内の公私立保育園合同企画で、地域の親対象の「子育て支援講座」を昨年度より開始致しました。親が参加しやすいように、託児を保育ボランティアに依頼し、実施すると多数の方が参加しましたが、今年度は託児を廃止すると参加者が半減するなど、地域全体での取り組み方には、色々な課題が残されています。老人や中学生との交流会も含め、地域の中でふれあ



座間市の状況 『保育フェスティバルin ざま』と銘打って二週間のスパンで公私立十八の施設を開放し、交流保育・観劇会・手作り玩具：等各施設で地域ニーズに応じたイベントを実施しています。期間中千六百余名の親子が各施設を訪れ、育児相談をはじめ、在園児とふれあい、親子で楽しめる好企画と評価を得ています。これから子育て支援の一助として、充実・発展に努めたいと考えています。

平塚 保育園の開放を平成六年から行い園庭及び保育室を開放し、主に園長、主任、担当職員が関わっています。情報提供として、子育てだより「コア」の発行をしています。地域活動事業として、プロジェクト「ミニミニ運動会」を、公立主催で、開放保育参加者対象に行い親子で体を動かして楽しんでいきます。園児五歳児の参加もあります。また育児相談や「もうすぐパパ、ママ体験」を始めました。これからは赤ちゃんと産み育てる妊婦が身近に赤ちゃんを見たり触れたりする機会の少ない現状があり、保育士が赤ちゃんとかわる姿を見て、安心して産み育てられるよう支援して

今後には、子育て支援に対する要望は今後ますます拡まっていくと思われれます。現在入所している子ども達の生活のリズムを乱すことなく園開放を行いながら、地域での反応や評価を受けとめ、本当に必要な支援は何かのを見極めて、関係機関との連携を図りつつ支援活動に取り組むことが大切だと思えます。



「保育の日」前夜祭

「保育の日前夜祭」は平成十四年十二月六日に横浜エグゼルホテル東急にて開催されました。

飯田課長代理より祝辞を頂戴した中で、「保育の日」の制定要綱案が紹介されました。保育関係者全てにとって、「保育の日」が有意義なものである事。世に保育士の果す役割をアピールすると同時に、地域の子育て支援の担い手としての重要性を、再認識していく必要性を述べられました。

県保育賞四人、春秋の褒章各一人ずつ、厚生労働大臣表彰二人の受章者です。

飯田県児童福祉課課長代理、内田県児童福祉課主幹、清水県社会福祉協議会常務理事、富米野ゆりの会々長、県下養成校の代表者、渋谷県保育士会会長他多数の来賓及びお祝いにかけつけた方々総勢九八名の参加のもと、前夜祭は幕を開けました。

主催者代表挨拶に富田保育会々長は、「保育の日前夜祭」開催にあたっての経緯や長い歴史について話されました。受賞された方々への感謝の意を表され喜びを伝えた後に、今直面する問題や保育の危機を訴え、子どもの最善の俸せを願いそして母親や地域への

支援の役割等、保育士としての責任の重さを熱き思いで語られました。

飯田課長代理より祝辞を頂戴した中で、「保育の日」の制定要綱案が紹介されました。保育関係者全てにとって、「保育の日」が有意義なものである事。世に保育士の果す役割をアピールすると同時に、地域の子育て支援の担い手としての重要性を、再認識していく必要性を述べられました。



ゆりの会々長富米野先生は、会員の方々の高齢化が進む中ですが、多方面で活躍をされ、今尚自己研鑽を積み努力されているとの近況報告がありました。受賞者の皆様には第二のスタートと思い、福祉の場での活躍に期待をよせているお言葉を頂戴いたしました。

養成校代表の鶴見大学短期大学部田中保育科長様より、長きにわたり保育に携わる中で、少子化の時代を迎え、人格形成の基礎作りをする、大切な時期に関する保育士に対する感謝の思いと、養成校の役割の大きさについて述べられました。

来賓紹介後、横浜女子短期大学助教の横森先生によるピアノ演奏と独唱が披露されました。唱歌でつづる四季の歌は、叙情豊かな思いを彷彿とさせ、日本芸術の豊かさに感動させられました。アレンジされたクリスマススメドレーは、クリスマスを待ちわびる子どもたちの笑顔を思いつつ、酔いしれる一時でした。

演奏後歓談に入り、御馳走に箸を運ばせながら、途中、横森先生の伴奏のもと、会場内の皆様で「花のおきなご」の大合唱をし、心をなごませました。

至福の時もまたたく間に過ぎ、自分の身近な幸せに感謝しつつ、豊かな気持ちで保育に取り組んでいきたいと閉会の辞を述べられ、閉幕となりました。

受賞おめでとうございませう

平成十四年度中に表彰の栄誉を受けられた方々です

◎春の黄綬褒章

元平塚市ゆうかり保育園 北原 頼子 様

◎秋の黄綬褒章

伊勢原市林台保育園 橋口 章公子 様

◎厚生労働大臣表彰

相模原市淵野辺保育園 霜 降 靖代 様

◎全国保育協議会会長表彰

南足柄市ふくざわ保育園 島田 けい子 様

◎全国保育協議会会長表彰

平塚市立大神保育園 椎野 絹子 様

◎全国保育協議会会長表彰

海老名市立柏ヶ谷保育園 服部 トミ子 様

◎全国保育協議会会長表彰

座間市立緑ヶ丘保育園 平岩 陽子 様

◎全国保育協議会会長表彰

横須賀市しらかば保育園 浜田 はる子 様

◎全国保育協議会会長表彰

綾瀬市立綾南保育園 関屋 啓子 様

◎全国保育協議会会長表彰

藤沢市立藤沢保育園 河野 チヨセ 様

◎神奈川県保育賞

海老名市立中新田保育園 下田 敏恵 様

◎神奈川県保育賞

三浦市初声保育園 高木 眞理子 様

◎神奈川県保育賞

鎌倉市富士愛育園 橋本 葉子 様

◎神奈川県保育賞

小田原市小田原乳児園 渡邊 澄江 様

◎全国保育協議会設立五十周年記念感謝状

十八名(お名前省略)

◎県保育会会長表彰

六十五名(お名前省略)

調理員研修会

寒さ厳しい一月二十三日に行われた調理員研修会に栄養士、調理員の方々に多数ご参加をいただき熱心に講話や講義に耳を傾けていただきました。

第一部は午前・午後と講義がありました。始めに富田英雄・県保育会々長はあいさつの中で保育所の保育には「知育」「徳育」「体育」の三要素プラス「食育」がある。給食を除いては保育所ではない。子供たちが一日の中で最も楽しみにしている給食を愛情を持って作ってほしい。「調理人が健康で子供の立場に立って作る給食は子供の舌を満足させる。」と強調され、参加者は大きくうなずき納得していました。

講義では「農産物と農薬について」を県環境農政部農業振興課露木洋一技幹及び「JAS制度にかかる食品表示について」を志村和成主査より資料をもとに説明がありそれぞれ食品を扱う時の注意

や、安全な食品作りに規制を設け私達の手に届いていることを知りました。

午後の部「保育所給食で今大切なこと」と題して、日本子ども家庭総合研究所の水野清子先生より講義していただきました。子どもにとって保育所給食のメリットとは、

①食事のリズム形成について
家庭児と保育所通所児を比較してみると、家庭児は遅寝、遅起き型が多く食事回数が2回になり、間食の与え方に問題があり、保育所通所児の食事は3回食べている子が多く規則正しいリズムが出来ているそうです。

②栄養素等の捕捉については保育所で給食を摂っている日と休日との比較をしてみると休日に摂取量が増えているものは、菓子類、嗜好飲料、鳥獣肉類で、休日に減少するものは、乳製品、イモ類、豆類、緑黄色野菜、魚介類などです。保育所給食の方が栄養が摂れているので、本当にすばらしいという先生からのお話がありました。

食事を通して豊かな心の育成については、保育所は給食

がおいしく、楽しい、リラックスクス出来る場であってほしい又、食事に関する知識の習得については、食卓での会話や保育所の行事食が大切だそうです。

衛生管理としては、チェック表を活用したり、保育所で食中毒を出さない様に気をつけましょうというお話がありました。次に、アトピー性皮膚炎や食物アレルギー児への対応としては保護者との面談をしたり、家庭や医師との連携を取り、必ず医師の診断によって除去食を開始し、終了する事が大切というお話がありました。

今後の課題としては、延長保育児の対応や体調不良児、障害児への食の対応、地域に開かれ保育所、給食業務の外部委託の問題などいろいろあります。育児支援の中心となりいろいろなサービスを提供し、地域の核となつてやって欲しいという先生からのお話を聞いて、とても勉強になりました。調理員には今後子ども達に温かいおいしい給食を作

当社は

きれいなすなば

をモットーに
園児のあそび場として大切な
すな場の年間管理を
しております



年間管理システムによる

サンド・クレンジング・サービス



Step1 加熱殺菌殺虫処理

Step2 オゾン水殺菌処理

Step3 熱水殺虫処理

Step4 オゾン水殺菌処理

※Step 1～4 処理時、異物除去



コスモ石油グループ
トコス エンタプライズ株式会社 サンドクレンジング事業担当

〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町9-1

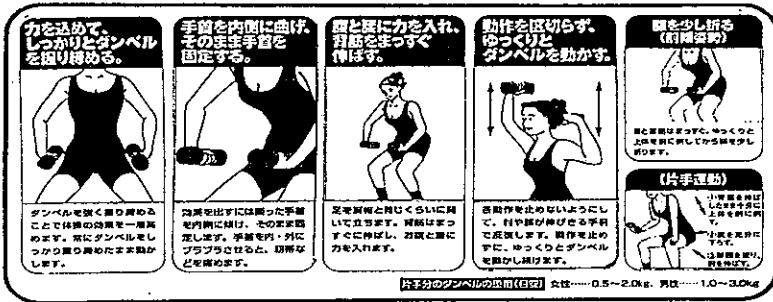
TEL.045-521-2050 FAX.045-521-2569

Internet HomePage : <http://www.comotas.co.jp>

玄米ダンベル体操

15分のダンベル体操で身体を引き締めて若返りしましょう。

ダンベル体操基本姿勢



ダンベル体操は、特に重量を意識した、ウェイトトレーニングとは全く違う体操です。筋肉隆々となるほどの、ウェイトを必要としない体操です。体操の基本として次の動作があります。①玄米ダンベルをしっかり握り締める。②手首を内側に曲げて固定する。③動作を区切らずゆっくりと動かす。以上の動作を忠実に、十二パターンを十回から二十回くり返す。

筋肉や骨をしっかりとつくり、基礎代謝をあげ、太りにくい身体作りができます。幼児から老人まで、手軽に取り組めます。現在保育園でも十二年度から行っています。知るきっかけは、社会福祉協議会施設部会の職員研修に保育園職員も参加したことからです。最近、子ども達が、ころんで手が出ない。ブランコや鉄棒をしっかりと握れず落下することも多く基礎体力が低下しています。少しでも子ども達の握力や筋力のアップにつながることを願って、また園の目標「丈夫な体」を目指して、楽しみながら、朝の体操として、曲に合わせ、十二パターン動きを取り入れていきます。母親や祖母の手作りのダンベルを持ち力いっぱい動作します。職員も地域の障害の方の地域作業所で作られたものを購入し朝のミーティングで5分間実施しています。子ども達は、地域の老人施設や、地域子育て支援の場などで披露しています。体操による効果は、少しずつ表われています。鉄棒がしっかりと握れさか上りや前まわりに安定した動きが見られました。

運動会の板登りも全員で挑戦し、達成感でいっぱいでした。平成十四年十月二十七日に、健康都市ひらつか創造を目指し「第十五回健康フェスティバル」が開催された。その中で「湘南創作ダンベル大会」が行われ、子どもから、高齢者まで幅広い参加でした。多くの施設や学校や公民館活動グループや商店街や地域作業所など約三十グループの参加で開催されました。ダンベル体操は、誰でも手軽に出来る健康づくりの運動のひとつとして、生活の中に取り入れて見てはいかがでしょうか。



編集後記

幼なかつた子ども達が心身共に成長され、卒園の日を迎える日も間近となりました。子ども達は色々な体験を経る都度大きく成長され、その大きさ、速さには目を見張るものがあり、子ども達の幸せを願わずにはおられません。

今、社会は大きな変革期にあります。政治・経済・社会に、先が見えないトンネルの中で変革波だけが荒荒しく打ち寄せているように感じます。保育をめぐる環境も例外ではなく、運営費の一般財源化、幼保一元化、保育所の調理施設の必置規制の廃止等がうねりとなって打ち寄せています。これはどれをとっても子どもが健やかに育つ環境に重大な影響をもたらす改悪波と言えらるのではないのでしょうか？

かつて他国の賢人が『子どもに投資しない国はいずれ滅びる』と言った話を思い出し、次代を担う子ども達の幸せの為、経済優先の改悪波が迂回してくることを願うこの頃である。

お忙しい中寄稿下さった皆様、心からお礼を申し上げます。